

ユウドウ 雄道 ↓フカンユウドウ 府貫雄道。

ユウトン 雄噉 ↓ミヨウドウユウトン

ユウネアン 祐念庵 羽咋郡牛首に在つて、眞宗東派に屬する。

ユウネンジ 涌念寺 珠洲郡松波に在つた。曹洞宗に屬し、永徳元年清福寺二代物先の創立した所であるが、今は無い。

ユウヒカン 雄飛館 ↓ソウユウカン 壯猶館。

ユウビカン 有備館 大聖寺藩に於いて、安政四年六月八日従來の時習館内の槍術、劍術等の稽古所を改稱したものである。各師範家が適宜に法を立て、館としての定期はなかつた。

ユウヘイ 悠平 ↓ゴトウセツタイ 後藤雪袋。

ユウホ 祐補 ↓セツソウユウホ 雪窓祐補。

ユウミヨウジ 遊明寺 珠洲郡羽根にあつた。能登誌に、『羽根村の磯邊に遊明寺として風景の小島あり。古寺の跡にて、今稻荷社あり。』とするが、佐藤氏筆記には『磯邊に遊明寺といふ古寺の跡あり。磯に風景の小島あり。稻荷の社あり。』と見えるから、寺跡は勿論島に在つたのではない。

ユウミン 遊民 前田綱紀の初世、一時頭振を遊民というた。十二冊御定書に、『御領國中百姓中其外遊民』などあるのはそれである。頭振でも遊民でも、尺寸の土地を有せざるものゝ稱で、たとひ二升高でも所有して居れば、百姓を以て遇せられる。遊民の稱は萬

治の頃から初り、元祿三年七月五日の令によつて再び頭振に復した。

ユウラ 湯浦 羽咋郡に在つた。神鳳鈔に能登國富來御厨湯浦と見えるが、今その地名を存せぬ。

ユウラホ 湯浦保 承久三年注進の能登國田數目録鹿島郡に東湯浦保・南湯浦保がある。今の和倉附近のことではあらうが、當時湯浦といふたのか、又は浦浦の誤寫か明らかでない。

ユウリユウマル 猶龍丸 加賀藩の汽船。建造年代不詳。原名ユンデイン。鐵製、長さ三十二間三尺幅四間二尺。馬力一百。噸數三百十八。明治元年九月長崎に於いて之を購入した。

ユカハ 湯河 承久三年注進の能登國田數目録鹿島郡に、『湯河村九段三』と記されるものは、後に上湯川・下湯川となつたものであらう。下湯川の名は今存せぬが、鶴浦がそれに當るらしい。

ユカハデンエモン 湯川傳右衛門 初め御歩より出で、奥附横目となり、天明四年新知百石を得て三十人頭に進み、八年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ユカハマサミチ 湯川正路 通稱宗右衛門。諱は正路。字は士義。號は雨里。本姓は上田氏で、寛政四年藩大夫前田氏の茶博士宗仙の歿した後を襲いだもの。學を稻垣寧州に習ひ、同九年十八歳にして假に明倫堂句讀師となり、十二年陪臣を以て句讀師に進み、教授四十餘年、天保九年九月十八日五十九歳を以て歿した。

ユキナガ 行長 羽咋郡菅原の百姓。本姓

國田氏。前田利家の能登に入國の際馳走した廉により、天正十年八月扶持高拾五俵を賜はり、その後十村を命ぜられた。その十村の職は四代目行長まで世々相傳へたが、承應三年に之を除かれ、眞享元年病死の後、子孫山廻に任せられた。

ユキノアケボノ 雪のあけぼの 一冊。能登黒島の俳人波井の著。その父波井の『鳴よると見ればみだるゝ衝かな』を發句にした寛政十年十二月十四日夜興行の歌仙が載せられ、その十七日に歿した波井に對する追悼句が列ねてある。波井の自序があり、卷末に寛政十二年申十月獅子窟とある。

ユキノコエ 遊きのこゑ 二冊。小松の俳人凡夫著。安永九庚子冬俄庵凡夫序。卷頭に樗良・凡夫・樗三人が那谷寺に參詣した自生山雪見の記を掲げ、諸所の紀行及び四時の風物に關する發句を集めたものである。刊記は無い。

ユキノシラカハ 雪白河 二冊。美濃の俳人魯丸著。享保十二年四月京橋屋治兵衛板。著者が奥州に行脚した時の紀行で、加賀では大正持・山中・小松・本吉・松任・金澤、能登では今濱・七尾で風交して居る。

ユキノフ 行延 珠洲郡木郎郷に屬する部落。

ユキノフジヨウ 行延城 珠洲郡行延に在つた。一にせいっきの城ともいふ。越登賀三州志故墟考に、『せいっきの城、木郎郷行延村領に在り。堡主無傳。』といひ、能登誌には、『脊籠といふ城跡あり。その城主の筋目の者とて、五郎左衛門といふ百姓あり。』と記する。

ユキハシ 雪橋 白山山中に在つて、兩山相對峙する所、冬月積雪崩頽して溪を埋めるが、初夏雪水泛漲して堆雪を穿ち、盛夏に至る時は水落ちて曠然一大洞門をなし、上下皆行くを得る。若し雪少き年には林に至つて初めて斷折する。是を雪橋と名づける。

ユキマサ 幸昌 加賀の刀工。初代幸昌は初代五郎助兼裏の二子。通稱木下五郎右衛門。茂右衛門信友に技を學んだ。加州住藤原幸昌承應三年八月日と切つたものが、前田利常の越中瑞龍寺寄進刀の中にある。萬治三年歿。二代幸昌は通稱加兵衛、延寶六年歿。三代幸昌は通稱藤右衛門、享保頃。四代幸昌も通稱藤右衛門、寶曆頃。五代幸昌は通稱八太夫、天明頃。六代幸昌は通稱藤右衛門、文政頃である。

ユキマド 雪窓 白山山麓地方では、遠く山中に入つて出作をなし、終冬歸らぬものがある。白山遊覽圖記にいふ。雪の將に降らんとする時、竹竿長さ二三丈のものを烟窓の上

に立てるが、晴れる頃は雪既に塵を埋める。依つてその竿を除く時は、纔かに一星隙を得て煙是より出で、隨うて出づれば隨うて潤くなる。之を雪窓といふ。しかし雪の深くなる時は雪窓によつて明を引く能はず、遂に長夜となることがある。故に最も燈を重んずるが、往歲之を失うて闔家死を致したものがあ

ると。雪窓は堆雪を通じて穿たれた煙突でもあり、明かり窓でもある。

ユキミツ 行光 加賀の刀工。初代は行光。藤原行光康正三年など、切る。二代は行光。加州藤原行光文明十六年三月二十一日。藤島行光永正三年など、切る。三代は行光享祿二年